都市デザイン研マガジン　第7号

毎月 1&15 日発行

2005. 7. 15　　東大西村・北沢研究室　編集・発行人　酒井憲一

http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/index-j.html

鞆の浦メンバー、元ほうき工場を実測

八尾は旧町に進出、町並み・石垣景観・観光客調査

去る 6 月 11 日から 12 日の週末に、都市デザイン研究室鞆の浦メンバーは、今年最初の広島県鞆の浦行きを敢行しました。中島助手、阪口Ｍ２、西原M1、そして鞆初体験の留学生チー、新Ｍ１の江口、鈴木、ゲストの黒瀬Ｍ２。毎度おなじみの新宿発 20 時 55 分初の夜行バスでの早朝の鞆入りは、何度体験しても新鮮な気持ちになります。今回は、新入生まちあるきや地元ＮＰＯとの懇親会のほか、今は空き家になっていますが、今後まちづくりの拠点として活用が期待される元ほうき工場の実測などを行いました。新しい『鞆雑誌』の発行、ほうき工場での新しい T-House の開催と、夢はふくらむばかりです。

■相変わらずの常夜灯

■ほうき工場内部、廃墟・・・

■実測調査隊の面々

チーM2 の感想　鞆初体験の留学生として、この港町の美しさに強く感動しました。波止、雁木、常夜灯のような特別なものを発見するのはとても楽しかったです。とくに、その都市構造には長い歴史の痕跡が見られます。伝統的な商家が並ぶ通りや寺院が卓越する界隈、ずっと昔から変わらない斜面を登り下りする階段が印象に残りました。また、住宅の建ち並ぶ地区では、排水施設やおしゃべりの場、祈祷の祠、そしてお風呂まである多機能な共用空間の存在が大変興味深かったです。住民の人たちが古い家をミュージアムや公共施設として活用していました。

また 7 月 8 日から 10 日にかけて、第一回八尾調査を実施しました。おわら風の盆、曳山祭で有名な富山県八尾、昨年は駅前地区の活性化計画を練りましたが、今年は八尾発祥の地で歴史的な雰囲気が残る旧町の西町地区のまちづくりを考えます。中島助手、岡村Ｄ２、大谷・金・田辺のＭ２＋1.5 のマイペーストリオに、江口・三澤・揚の新Ｍ１が新たに加わり、町並みや石垣景観、観光客調査を行いました。地元の住民の方々とのワークショップでは熱心な意見が飛び交い、その後の飲みニケーションも含めて、充実した会合となりました。遠藤元助手も金沢から応援に駆けつけてくれました。

■西町の町並み

■石垣側の眺め

■造酒屋見学中、実は絶景です

第 5 回研究室会議　第 5 回研究室会議は 7 月 14 日（木）に開かれ、修士課程の黒瀬武史「行政と民間の協働によるブラウンフィールドの再生の手法」、西原まり「地方都市の地域特性化の方策としての空家再生に関する研究―鞆の浦地区を対象とした既存施設の再生利用―」、鈴木智恵子「まちなみコントロールの仕組み」、早坂勝一「郊外住宅地における地区ルールづくりに関する研究～板橋区常盤台を対象として～」、柴田直「帰属と従属をめぐる都市空間の変容に関する研究」、研究生の酒井憲一「都市美ジャーナリスト椽内吉胤と都市美協会運動」が研究発表を行った。次いで野原助手から大野村の近況報告があった。

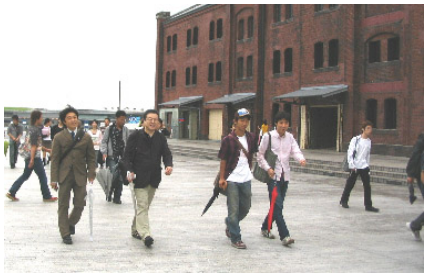
●北沢新教授初授業　学部 3 年 横浜都市デザイン見学

北沢猛教授は 7 月 4 日、フィールドである横浜都心部の都市デザイン現場見学授業を行った。学部 3 年「都市工学の技術と倫理」の授業で、40 人近くが受講した。まず、みなとみらいプレゼンテーションルームで会田副市長と小沢都市デザイン室長の講義を聴いた。会田副市長は、受講生が将来の幹部候補であることを示唆しつつ、政策転換の洞察力と心構えについて、コンセプトと体験を語った。

見学コースは、ドックヤードガーデン―汽車道―運河パーク―赤レンガパーク―開港の道―開港広場―日本大通り―本町通り、次いでオプションとして馬車道、BankART1929、東京芸大が入った旧富士銀行、日本郵船だった。

事前レクチャー

降りず降らずみの汽車道



雨上がりの赤レンガパーク　前左端野原助手

20 年–御樋代木奉曳（みひしろぎほうえい）との遭遇（伊勢にてＯＧ通信）　*石山千代*（シンクタンク研究員）

おかげ横丁の運営会社伊勢福でのうちあわせを終えて、夏の風物詩「赤福氷を食べよう！」とおはらい町を歩いていたら、五十鈴（いすず）川沿いに人が集まっている。長野と岐阜の山で伐り出され各地で奉迎されてきた御樋代木（ご神体を納める器となる檜）が伊勢に到着、川曳（かわび）きが始まるという。まもなく揃いの菅笠と「太一」と染め抜いた法被の男たちが川につかり木遣（や）り歌と「エンヤ、エンヤ」の掛け声で、上流の内宮（主祭神天照大神）へ向けて３本の檜を曳いていく。御樋代木奉曳といい、2013 年「式年遷宮（しきねんせんぐう）」始まりの重要祭事のひとつだった。

内宮へ向かう御樋代木

内宮（上）と木遣り歌

内宮前のおはらい町

書評　★西村幸夫『都市保全計画』出口敦九州大学助教授（OB）：これまで運動論や方法論の側面が主として研究され、論じられてきた「都市保全」が、本書では、極めて創造的で建設的な計画論として体系化され、その目的、対象、方法に関して事例を多数参照しながら、分かりやすく解説されている。長年の研究蓄積に基づいた情報リソースとして、また解説書、教科書としても必携の一冊である。（『都市計画』255 号）

編集後記　研究室の新旧秘書ともに舞台人という本誌の紹介に、華やかさの少ない工学部としてはちょっとした話題となった。それに刺激され、東大歌劇団カルメン公演（無料）にいった。全部フランス語だった。そのかわりパワーポイントによる逐一日本語訳のおかげで、初めてディテールのやりとりがわかった。法学部 3 年のホセはカーテンコールで泣いた。わが研究室メンバーを探したが見つからず、今夜も猛研究中かと思い、両方に拍手した。（酒井）